



<特集> 植栽地の今

植栽地を訪れてくださる方から「へえこんなに大きくなったんだあ」と我が子の成長を喜ぶかのような感動の声をいただきます。今号では、ご支援いただいているすべての皆さまに、植栽地の現状をお伝えします。



植栽地に6カ所設置してある看板。看板上部の緑色はクロマツを、横のウェーブは波を表現している



<2014年植樹祭植栽地>植栽後2年経過



<2015年植樹祭植栽地>植栽後1年経過



<2016年植樹祭植栽地>植栽後2ヵ月経過 (いずれも6.30撮影)

全国からのボランティア

これまで全国から3,500人を超える方々が現場で汗を流してくださっています。今年も全国各地から多くのボランティアが訪れてくれています。



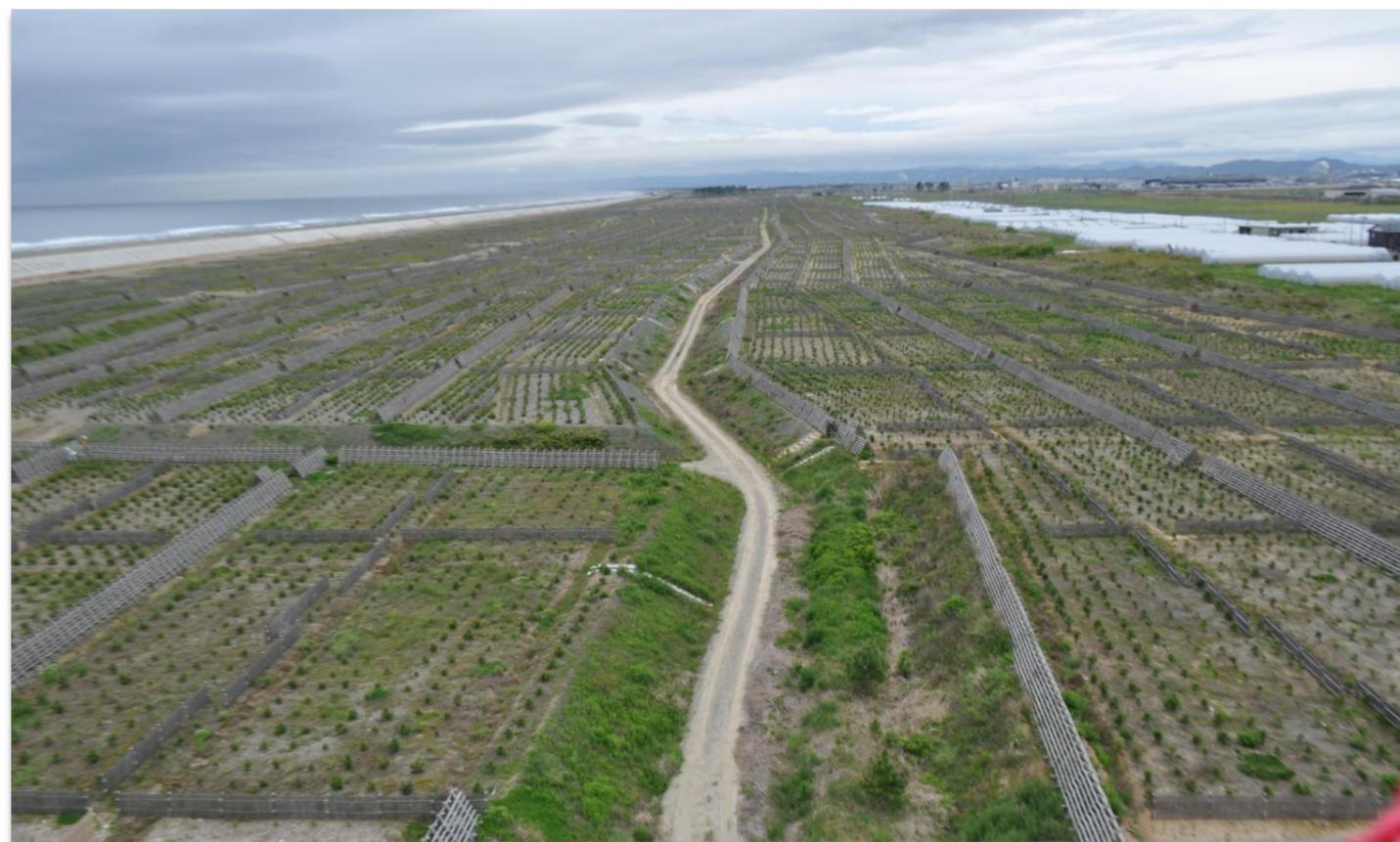
6月のボランティアの日には、雑草優勢となった内陸防風林植栽地のクロマツを救出していただきました(6.18)



公欠扱いの中学生5人を含む29人が愛知県からボランティアに。中学生は鎌の使い方の指導を受け、慣れないながらも一生懸命作業してくれました(6.26)



宮城県大河原町立金ヶ瀬中学校の全校生徒が、震災関連のボランティアをしたいという生徒からの要望で、2時間という短時間でしたが、つる草抜きに精を出してくれました(6.29)



2014・2015年植栽地、約25haの全景。高さ20mの高所作業車から、はっきりとクロマツが確認できるほどに成長した。右奥に見えるのはビニールハウス団地。震災後に再建され、昨年7月からチンゲンサイ、小松菜などの出荷が再開している(5.21撮影)

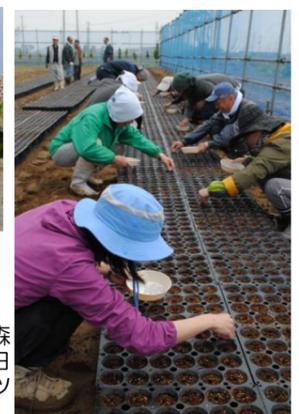
クロマツ太郎 寄附者銘板設置



植栽地南端の防風柵にご寄附いただいた方(※)のお名前を記載したプレートを設置しています(※法人・団体10万円以上、個人1万円以上)



森林組合の職人が4月中旬から5月上旬の2週間かけてクロマツ9万本の植栽を行った



「名取市海岸林再生の会」・森林組合が協力して5月2・3日の2日間で10万粒のクロマツの種まきを行った

クロマツは1年でどれだけ成長する？



① 4月下旬 冬の間に蓄えたエネルギーを一気に発散し、穂が伸び始める



② 5月下旬 穂の伸長は6月下旬ごろまで続く。写真は広報室の林



穂の先には雌花が開花。結実すると松ぼっくりになる。写真右の松ぼっくりは、今年の秋、種子を放出するだろう



③ 6月中旬ごろ、穂から松葉が生え始める。つまり、クロマツの1年間の成長量は穂の長さによって決まる。成長著しいクロマツの穂は1m近く伸び、成長の遅いものは穂が短い



植栽地で最も樹高があるクロマツ。すでに2mに達する。右はプロジェクト担当部長の吉田(6.10)